

株式会社 日新
2025年3月期第2四半期 決算説明会
主な質疑応答（要旨）



開催日：2024年11月22日

出席者：代表取締役社長 社長執行役員 筒井 雅洋
代表取締役 専務執行役員 渡邊 淳一郎
取締役 常務執行役員 榎原 智

Q1.

下期の見通しについて、国内・海外それぞれどう見ているのか。特に米州は下期に回復することだが、詳細を教えてください。

A1.

・国内・海外とも下期は安定的に推移し、通期の目標は達成するものと考えます。

特に、米州は上期に予定していた貨物が下期にずれたこともあり、下期には回復するものと見込んでいる。また、トランプ新政権下での通商政策等が現時点で不透明なため、現地の在庫を増やすというニーズもあり、米州は回復してくると見込んでいる。

Q2.

通期予想を達成するために、下期における重点的な取り組みや課題等があれば教えてください。

A2.

・既に取り組み中の新規・既存案件の拡充と、NN7フェーズ1で竣工した化学品向けの神奈川埠頭倉庫、今月開業したモビリティ事業向け北関東ロジスティクスセンターの収益化に注力し、通期目標の達成を目指す。

Q3.

為替変動による売上高・利益への影響はどの程度になるのか。

A3.

・対米ドルで1円変動した場合、売上高で約7億円、営業利益で約30百万円増減する。

Q4.

累進配当導入により今後増配の予定はあるのか、また自己株式取得の方針についても教えてください。

A4.

・これまでも実質的に累進配当は継続しており、今後もこの方針を明確にするために配当方針に「累進配当」を盛り込んでいる。また、自己株式取得の方針については、今後の状況を見ながら機動的に行うことを考えている。

Q5.

公募社債 100 億円の発行経緯と理由を教えてください。

A5.

・昨年 R&I から信用格付け「A-」を取得し、また成長投資等に資金需要が見込まれることから、資金調達の多様化と財務レバレッジ活用の観点から公募社債発行により 100 億円を調達した。

Q6.

成長分野である食品物流において、国内食糧保管施設、低温物流設備拡充とあるが、新規で土地取得し倉庫建設を行うのか。また、既存倉庫のうち、老朽化した倉庫の再開発についての検討状況について教えてください。

A6.

・前中期経営計画で開設した平和島冷蔵物流センターでは、事業は好調に進んでいるが、顧客のニーズが高く保管スペースが不足する部分は外部倉庫を賃借し対応している。そのため、現在構想の段階ではあるが、老朽化している関西地区の摩耶倉庫については神戸市と協議し再開発を進め、現中期経営計画期間中もしくは次期中期経営計画の早い段階での新倉庫建設を進めたいと考えている。

Q7.

7～9 月について、4～6 月に比べて減収増益となっているが、要因を教えてください。

A7.

・4～6 月の期間は例年物量も低調であり収支も落ちる。一方、7～9 月の期間は、物量の取り扱いも増えるなど物流の活発さが見られた。

Q8.

自己株式の取得により、DOE4%を下回ると考えるが、1 株配当を期初予想の 200 円から修正しない理由を教えてください。

A8.

・配当方針（株主資本配当率 4.0%を下限とする累進配当）に沿って内容を確認する。

Q9.

- ①食品物流倉庫の投資について、今後の構想について教えてほしい。
- ②EMG サービスの進捗状況を教えてほしい。

A9.

- ①食品物流倉庫の投資については、成長分野の取り組みにおける構想にもあるとおり、関東地区と関西地区両方とも検討している。
- ②米国における EMG サービスについては、サプライチェーン全体で利用する顧客は 1 社、部分的な利用は数社となっているが、今後需要は高まるものと見込んでおり、部分的な利用から全体的な利用へさらに増えるものと考えている。また、日本での展開はまだ時間を要するが、米国と同様のサービス拡大を考えている。

Q10.

九州ロジスティクスセンター（仮）については、先日土地を取得した熊本県大津町での倉庫になるのか。また、九州地区における展開について、構想中の拠点も含め、竣工の目途がわかれば教えて欲しい。

A10.

- ・九州ロジスティクスセンター（仮）は熊本県大津町で建設を予定する倉庫であり、NN7 フェーズ 2 期間中での竣工を予定している。また、九州地区での展開については、福岡県に子会社の九州日新があり、現在同社が保有する土地を有効活用し、化学品・危険品倉庫の建設を計画している。

以上